
貴方に捧げるこの生き血

流昂貴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

貴方に捧げるこの生き血

【Nコード】

N7680D

【作者名】

流昂貴

【あらすじ】

未来設定で獄寺、ツナ、山本のお話。戦いの最中、獄寺の目の前でツナが・・・！？

（前書き）

死にネタ注意です。

届かない、腕。

ああ、俺はまた失うのか。

大切な人を。

「……………十代目！！！」

俺を庇って。

俺の目の前で貫かれた、その身体。
信じられなくて、信じたくなくて。

でもそれが現実なのだと、顔に飛び散った生ぬるい感触に俺は叫んだ。

叫んで叫んで、叫びながら十代目を刺したヤツをぶん殴った。

鈍い、音がした。

でも、全然駄目だった。こんなもんじゃない。十代目が刺された痛みは、こんなもんじゃ、

「 獄寺！」

はっと、その声に、ただひたすら殴り続けていたその男を離す。
手を離すとその男は情けなく地に伏し、死んだように動かなかった。
それを見届けた後、声のした方向に顔を向けるとそこにいたのは山本だった。

山本は俺を見据えていた。笑いもしない、怒りもしない。ただ、俺の事を見ていた。

「……………なんだよ」

「……………ソイツのことより、ツナのほうが大事だろ」

そう言って山本は動かない十代目の腕を引っ張って自分の肩に担ぎ、踵を返す。

「・・・もう敵はいねえよ、ソイツで最後だ」
「・・・・・・・・」

短いその言葉が、周りの現状を物語っていた。

十代目が刺されたとき、多分周りにはまだ敵はいたと思う。

でも、もういない。それは、山本が倒したということだ。

多分、山本も十代目が刺されたところを見たのだろう。だから、自分の周りの敵を片付けて、十代目の下に來たのだ。

・・・山本も、自分と同じなんだ。

それなのになんだ、自分は。十代目が刺されたと、その刺した奴を我を忘れて殴り続けて。

山本もコイツをきつと恨んでる。でも、それをしないのは。

・・・俺、右腕失格だな。

「・・・病院行くぞ」

「・・・・・・・・ああ」

山本の前を歩く。助かる見込みは無い、だけど。

俺を助けてくれたその命、出来る限りのことはさせましょう。

それでも助かることがなければ、そのときは。

貴方が助けてくれたこの命、決して無駄にはいたしません。

貴方に捧げるこの生き血。生かすも殺すも貴方次第。

貴方が俺を命に代えても守るのなら、俺はその命を守りながら生きるだけ。

（後書き）

結構真面目に書きました。

・・・ファンフィクションですが；

感想、アドバイスなどどうぞよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7680d/>

貴方に捧げるこの生き血

2010年10月9日05時27分発行